

③ 本時のねらい

本時のねらいを具体的にあげてみると次のよ

うになる。

ダンスについて

ア、5～6人のグループで、話しの「すじ」
に従って模倣できるようにする。

イ、リズムに合わせて、自由に楽しく、のび
のびと表現できるようにする。

前まわりについて

ウ、なめらかに前まわりができるようにする。

—— A程度

エ、まっすぐにころがり、ひざを持って起き
ることができるようとする。—— B程度

オ、傾斜を使って、前まわりができるよう
にする。—— C程度

④ 程度別集団編成の基準

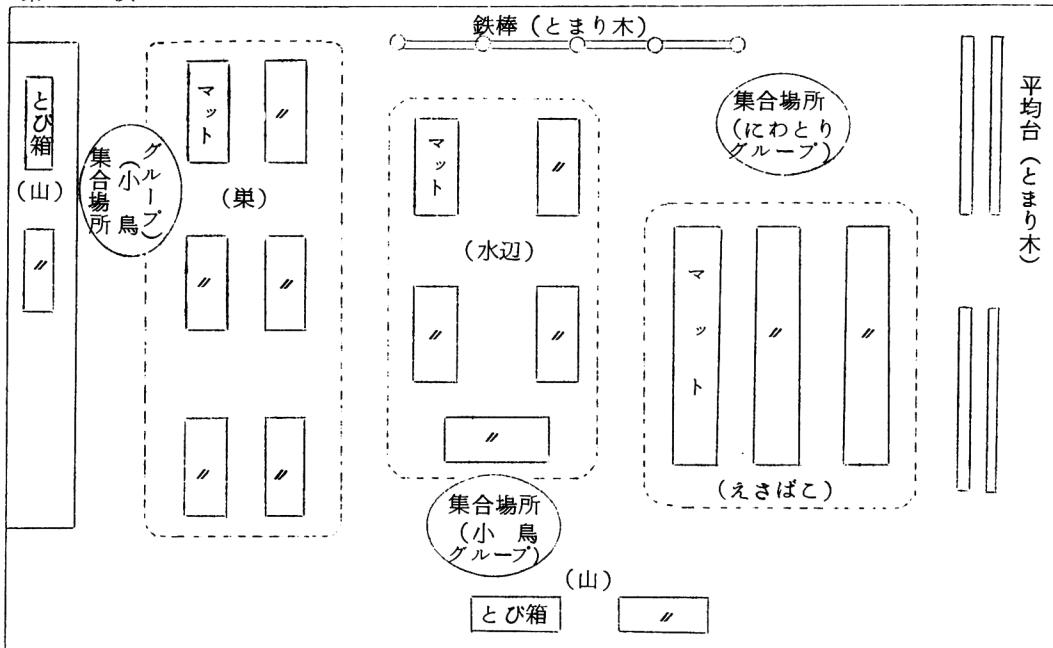
第2次

A（紫組）—— 活発……まがらないでまわ
り、ひざを持って起きることができる。

B（赤組）—— 普通……一応まわされるが、
手をつかないと起きられない。

C（ピンク組）—— 不活発……ひどく曲っ
たり、なかなかまわれない。

第3・4次



A（紫組）………なめらかに前まわりができ
る。

B（赤組）………まっすぐにころがり起きる
ことができる。

C（ピンク組）…傾斜を使って前まわりがで
きる。

⑤ 児童の実態

1・2・3組合併で96名、男50名、女46名
である。身体活動への意欲は盛んで、ほとんどの児童は、体育の時間を好んでいる。男女の意識はみられず、仲よく運動することができる。
第2次取り扱いの「前まわり」運動では、Aの
グループが35名、Bのグループは34名、Cの
グループは26名である。できる、できないと
いうよりも向上への意欲をもたせるため、紫、
赤、ピンクのリボンをつけさせる。児童は喜ん
で学習に参加し、家庭においても、ふとんの上
などで練習している。

⑥ 準 備

マット(12枚)、レコードプレイヤー、ピア
ノ、タンブリン、種別リボン、リーダーのカン
ムリ

⑦ 場の構成